

本日の
プログラム

会長年頭挨拶／年男の弁

コロナ禍の大学で学生は成長できるか

小山 茂 会員

入会は2014年3月6日、55周年の直前で菊地章会長、滝川武彦副会長、川幡宏一副会長、高橋徹幹事、犬嶋清幸ロータリー情報委員長、推薦者は佐藤芳郎会員、菅野龍雄会員、川幡宏一会員でした。

① コロナ禍における札幌大学の対応

2020年度のコロナ感染者は、学生43名、教職員0名でした。2021年度のコロナ感染者は、現在まで学生96名、教職員0名(学外課外活動指導者除く)です。2021年10月1日から対面授業(履修者100名未満)を再開しました。2022年1月から対面授業(履修者200名未満)を実施する予定です。

コロナ感染対策として不織布マスクの着用、消毒や手洗い、食事は黙食をルールとしています。校舎の出入口には検温計や消毒液(たくさん)を配置しています。教員はコンパクトCO2測定器を利用し、教室の濃度を測定しています(自分の声が影響大)。

課外活動では、毎日の検温と健康観察、行動履歴を提出させ、なおかつ「新型コロナウイルスモニタリング検査」も週1回協力させていました。現在は大会出場者のみPCR検査を自主的に実施しています。

② 教員の変化、学生の変化

コロナ禍の大学教育で一番心配していたのが教員による遠隔講義の実施でした。対応策として教員向け遠隔講義講習会を何度か開催しました。その結果、遠隔講義による問題を発生させずに実施でき、また教員の遠隔講義スキルが向上できたと考えています。

遠隔講義には、Microsoft Teams (Zoomも同様)を利用したライブとオンデマンドがあります。ライブ講義とは、時間割通りに遠隔講義を実施し、学生も参加します。文部科学省の指示により録画も行います。学生は自分の姿(特に顔出し)を出さずに視聴しています。

オンデマンド講義とは、教員が自分の都合の良い時間に講義を録画し、学生も自分の都合の良い時間に視聴できるものであり、学生の視聴状況は全くわからない状態です。結局、2つの講義ともに課題を出させることで講義を理解したものと判断しています。

学生のメリット:好きな時間・場所で何度も繰り返し視聴できるし、停止・倍速などの視聴もできるのでノートの作成が容易である。講義資料がデジタル化されているので紛失しない。

学生のデメリット:時間管理ができず、質問もできず、課題量が多く、学生間で相談ができない。ライブ講義は収録されないことや、収録情報の提供がないことがある。「コロナ禍の大学で学生は成長できるか」とても疑問に感じています。

③ 札幌大学新棟完成

2021年12月7日(火)3棟からなる新棟(SUcole:スコール)の竣工式・落成式を行いました。コロナ禍に対応できる518人×1ホール、283人×2大教室、153人×10中教室となります。

コンセプトは地域に根差した札幌大学の歴史を受け継ぎ、次世代に発信する新たな学び舎の整備。特にICT設備としてアフターコロナの時代にふさわしく、対面・遠隔を融合させたハイフレックス型講義(同じ内容の講義を対面とオンラインで同時に行う方法)にも柔軟に対応できるものです。

④ 札幌東RC会員によるボランティア講演

2020年度9名、2021年度8名の会員にご協力いただき、各業界の動き、自社の取組や求人、学生へ伝えたいことなど、今の学生が社会に出るために必要となる様々な事柄についてご講演を行っていただいております。新棟でご講演いただけた会員もおりますが、対面授業では学生数の参加が少なく誠に申し訳ございません。

最後に、来年は「壬寅」、厳しい冬を越えて芽吹き始め、新しい成長の礎となることです。2022年は札幌東RCの楽しいFSMをたくさん開くことができることを願っています。

来年もよろしくお願いたします。



■本日のロータリーソング
君が代、四つのテスト

2021～2022年度 国際ロータリーのテーマ
「奉仕しようみんなの人生を豊かにするために」
国際ロータリー会長：シェカール・メータ